

わが

家族・地域・行政が「子ども」に寄り添うまち
子ども伴奏プロジェクト始動

鳥海山の山体崩壊によつて
できたまち

にかほ市は日本海に面し、鳥海山に抱かれた、農業と電子部品製造業が集積する工業を基幹産業として、日本海の恵みを生かした漁業、豊かな自然と貴重な歴史や文化遺産に支えられた観光など、豊富な資源に恵まれた風光明媚でコンパクトなまちです。



鳥海山に染み込んだ水が長い年月をかけ、岩肌一帯から湧き出す「元滝伏流水」

今から約2500年前、鳥海山の山頂から約60億tもの土砂が崩れ落ち、その土砂は海岸部まで達して、日本海を広く埋め立てました。現在の本市の地形は、この時に形成されたものです。その一部

は、国の天然記念物に指定されている「象潟」九十九島の原型となりました。大きな潟に100を超える島を浮かべ、松島と並び称される景勝地となった「象潟」には、紀行文「おくのほそ道」の旅の目的地の一つとした江戸時代の俳人・松尾芭蕉をはじめ、多くの文人墨客が訪れています。

その後、文化元（1804）年の象潟地震で、景勝地「象潟」は地盤が約2m隆起して陸地化し、現在の田園に島が浮かぶ姿となりました。毎年田植えのころには、水を張った水田に往時の風景がよみがえります。

水と命の循環

鳥海山は太古から噴火を繰り返すことで、溶岩の層がミルフィーユ状に重なり、水を貯めやすい地

層になっています。そこに、日本海を北上する対馬暖流から、たっぷりと水蒸気をもらった季節風がぶつかって、一説には屋久島の降水量をしのぐともいわれる大量の雨や雪を降らせています。地下に浸透したその水は、麓に湧き出て多くの生命を育み、地域住民の生活と文化にも欠かすことのできないものになっています。本市では、あらゆるところで「水と命の循環」を直接感じることが出来ます。

平成の名水百選に選定された「元滝伏流水」やブナの巨木が群生する「獅子ヶ鼻湿原」などの美しい自然景観と、ミネラル豊富な伏流水が育てた「天然岩ガキ」や「いちじく」などの海と山の幸にあふれ、「番楽」や「小滝のチョウクライロ舞」など、古くから鳥海修験と密接な関わりを持つ伝承文



ミネラル豊富な伏流水が育てた「天然岩ガキ」

化が脈々と継承されています。これらの景観と湧水、人々の生活など、鳥海山と日本海がもたらす独特の環境は、鳥海山・飛鳥ジオパークや日本遺産の認定に結びついています。

子どもに寄り添う

本年の2月に改訂した第2期にかほ市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、「にかほ・子ども伴奏プロジェクト」がスタートしました。このプロジェクトは、子どもを主役として、家族・地域・行政が寄り添い、出産・育児・教育・親



かつて潟に浮かんだ九十九島は、水田の中に往時の面影を残す

また、小中学校では「島海山・飛島ジオパークなどの自然環境」や「番楽、神楽などの郷土芸能」といった地域独自の素材を学ぶ「にかほ地域学」を実施しています。

さらには、廃校を活用したサテライトオフィス・コワーキングスペースや、若い世代が負担の少ない家賃で住むことができる若者支援住宅（仮）の整備

の就労・住まいをトータルでバックアップするものです。SDGsの考え方にも通じるもので、①親の経済状況による不平等の解消、②地域全体で寄り添う社会の構築、③地域の特色を生かした教育の三つのテーマを柱にしています。

主な内容としては、高校卒業年度までの医療費無料、保育所などの保育料無料・副食費全額助成、若者夫婦・子育て世帯への家賃補助などの経済的支援に加え、子育て世代包括支援センター「あのね」（にかほ市ネウボラ）では妊娠、妊娠から出産、育児に関する相談を行っております。

を進めています。

このように、親の経済的・精神的負担を軽減する政策に加え、子どもが伸び伸びと育つような教育環境を整備しています。

オンラインを活用した情報発信と新たな働き方

平成30年3月に閉校になった二つの小学校を、新たな活用策の下で整備を進めています。

一つは、旧上郷小学校を活用した情報発信・収集拠点の整備です。

ここでは、全国各地でまちづくりに関わっているプレーヤーの活動を学び、本市での取り組みのヒントにしたり、本市の食や文化、人を動画やネットラジオなどを通じて発信したりしています。このような情報を他の地域と共有することで、お互いに関係人口を増やし、共に発展していく姿を目指しています。

もう一つは、旧上浜小学校を活用したインキュベーション施設の整備です。ここには、サテライトオフィスやコワーキングスペースを整備し、将来的に起業を考えている人や具体的にビジネスを始めたい人の育成プログラムを行い、

新たなビジネスを生み出すきっかけづくりの場としての活用を目指しています。

これらの拠点は島海山と日本海に面しているため、登山やサーフィン、写真、釣り、自転車、バイクなどのアクティビティを楽しみながら働くワーケーションもできる環境にあります。二つの拠点を整備することで、地方で「働きながら遊ぶ」あるいは「遊びながら働く」スタイルを実現し、子どもにとってより良い教育環境と親が

プロフィール

◆ 面積 241・13 km²
◆ 人口 2万4031人
◆ 世帯数 9394世帯

〔将来都市像〕 夢あるまち 豊かなまち 元気なまち 住みたいまち

〔まちの特徴〕 島海山と日本海の豊富な自然と製造業を中心としたハイテク産業が融和するまち



にかほ市長
市川雄次



〔市町村合併〕 平成17年10月1日、仁賀保町、金浦町、象潟町が合併

〔特産品〕 天然岩ガキ、大竹いちじく

〔観光〕 島海登山、獅子ヶ鼻湿原、「象潟」九十九島、元滝伏流水、仁賀保高原、TDK歴史みらい館、白瀬南極探検隊記念館など

〔イベント〕 小滝のチョウウクライロ舞、奥の細道全国俳句大会、島海山伝承芸能祭、掛魚まつりなど



閉校となった学校を活用したネットラジオ収録

考える豊かな暮らし方が実現できるまちを目指します。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

魅力がいっぱい「だから日光」

豊かな自然と
貴重な文化遺産が魅力

日光市は、栃木県の北西部に位置し、県土のおよそ4分の1を占め、全国で3番目に広い面積を持つ市であり、そのうちの86%が森林です。日光国立公園を中心とする山間部の多くは、水源かん養や自然環境の保全などの機能を担う振興山村地域に指定されており、一部は水源地域にも指定されています。

地形は、標高2000m程度の平坦な地域から2kmを超す山岳地域まで起伏に富んでおり、一年を通じてさまざまな観光・スポーツ・レクリエーションが楽しめる、四季折々に彩られる美しい自然景観が来訪者を魅了しています。

また令和元年、世界遺産登録20



奥日光に広がる日本有数の湿原「戦場ヶ原」(日光フォトコンテスト入賞作品)

周年を迎えた「日光の社寺」をはじめとする文化遺産や、ラムサール条約登録湿地「奥日光の湿原」のほか、良質で豊富な温泉など、多くの観光資源を有しており、日本国内のみならず海外からも多くの観光客が訪れます。

国際観光文化都市として

平成の大修理を終えて公開され

た日光東照宮陽明門や、東武鉄道が運行するSL「大樹」の効果により、令和元年は約1200万人の観光客が訪れました。

海外からの観光客も年々増加傾向にあり、令和元年には外国人宿泊者数が約12万人と海外各国からも注目されています。このため、外国人旅行者がストレスなく安全安心に観光を楽しめるよう、観光インフラ整備として観光案内板の多言語化、公衆トイレの洋式化、Wi-Fi環境の整備などを行っています。

また、さらなるインバウンド誘客推進に向け、本年7月に一般社団法人DMO日光の組織改編を行いました。新組織では日光市長が代表理



市内観光地は外国人旅行者にも人気(日光フォトコンテスト入賞作品)



修学旅行をはじめ、全国から多くの観光客が来訪(日光フォトコンテスト入賞作品)

事となり、二社一寺や地元企業などから理事を選任するなど、これまで以上に強い観光地づくりを推し進めます。8月には観光庁から「重点支援DMO」にも選定されました。



周囲約25km、最大水深163mの中禅寺湖（日光フォトコンテスト入賞作品）

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響で開業を延期していたラグジュアリーホテル「ザ・リッツ・カールトン日光」が7月に開業し、高級温泉旅館「ふふ日光」も今月に開業したことで、地域に明るい話題がもたらされました。

コロナ禍の経済支援策

本年、世界規模で感染が拡大した新型コロナウイルス感染症により、外国人旅行者の入国制限や東京2020オリンピック・パラリンピックの延期、国の緊急事態宣言期間中における日光の社寺の拝観停止などにより、観光客や修学

旅行生が激減し、観光が基幹産業である本市の経済に甚大な影響が出ています。

そこで、観光施設や宿泊施設、交通事業者など、低迷する市内経済を支援するため次の事業を実施します。

①周遊性の向上や滞在時間の延長による宿泊客の増加につなげるため、世界遺産に登録された社寺がある日光エリア、多くのテーマパークを有する鬼怒川エリア、それぞれで2日間使用できる「世界遺産日光の社寺・奥日光満喫周遊パスポートおよび日光まるごとテーマパーク鬼怒川2DAYパスポート」の発行。

②市内観光における貸し切りタクシーの利用を促進するための「プレミアム付きタクシー券」の発行。

③旅行予約サイトを活用して、市内の「体験型コンテンツ」を販売する事業者を支援するとともに、体験型コンテンツ利用による観光客の滞在時間の延長、観光消費額の拡大、満足度の向上を図る「体験型コンテンツ販売促進」。

④宿泊施設の需要喚起の一環として、県内の小中学校が教育旅行として市内宿泊施設を利用した際の宿泊費や、現地ガイドを利用する場合の費用に対する助成を行い、児童・生徒へ思い出作りの機会を提供する「教育旅行等支援」。

これらの事業を通して、1人でも多くのお客さまに本市の魅力を感じていただきながら、市内経済

の支援につなげてまいります。

さらなる安全安心な日光市を目指して

本市では、全てのお客さまに安全にお過ごしいただけるよう、日光市観光協会や関係事業者の皆さまと共に観光産業全般の感染予防対策に万全を期して、安心してお越しいただける環境づくりに取り組

組んでおります。

ぜひこの機会に日光にお越しいただき、日光の良さ、魅力を再発見していただきながら、日光を応援していただければ幸いです。

豊かな自然、澄んだ空気、美味しい水、さわやかな風、癒やしの温泉、そして先人たちの築いた伝統・文化が皆さまをお待ちしております。

プロフィール

◆ 面積 1449・83km²
◆ 人口 8万624人
◆ 世帯数 3万6590世帯

〔将来都市像〕
「あそびのまち」暮らしで満足 訪ねて納得 自然と笑顔になれるまち

〔まちの特徴〕雄大な自然、世界文化遺産、豊富な温泉など、恵まれた地域資源を有するまち

〔市町村合併〕平成18年3月20日、今市市、日光市、藤原町、足尾町、栗山村の新設合併



日光市長
大嶋一生



〔特産品〕日光彫、日光茶道具、今市の挽物、杉線香、足尾焼、日光の名水、手打ちそば、天然氷、湯波

〔観光〕日光国立公園、ラムサール条約登録湿地「奥日光の湿原」、世界遺産「日光の社寺」、世界一長い並木道「日光杉並木街道」、産業遺産「足尾銅山施設」、鬼怒川・川治温泉、湯西川・川俣・奥鬼怒温泉郷

〔イベント〕日光東照宮秋季大祭、日光そばまつり、湯西川温泉かまくら祭、日光二荒山神社弥生祭、龍王祭（鬼怒川・川治温泉）

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

高校球児の聖地は関西一の 安心で良好な文教住宅都市

日本書紀に由来する
歴史的な地

西宮市は兵庫県の南東部、大阪と神戸の中間に位置し、北は六甲山系の山並み、南には大阪湾を望む豊かな自然に恵まれ、風光明媚な住宅都市として発展してまいりました。

西宮の地は、古くは日本書紀に



兵庫県第一の古社「廣田神社」

記される兵庫県第一の古社「廣田神社」をはじめ、歴史ある多くの

寺社仏閣を有し、中でも廣田神社は古来より京の都の西方にある特別な神社、すなわち「西宮」と称され、この名は現在の市名へと受け継がれています。また、「えべっさん」の名で親しまれている全国のえびす神社の総本社「西宮神社」で行われる「開門神事福男選び」は、新年の風物詩として、近年全国的に注目を集めております。

江戸時代には、六甲山系をはじめとした複数の伏流水が交わり湧き出る、酒造りに適した名水「宮水」が発見され、酒造りが盛んに行われるようになりました。その上質な酒は、本年度、日本遺産に認定された「灘の生一本」として全国に知られ、現在に至るまで、酒造業は本市の基幹産業としてこ



1月10日早朝に行われる「開門神事福男選び」

の地の産業をけん引するとともに、また地域一体となり、宮水の保全に取り組んでまいりました。

こうした自然と調和したまちづくりの伝統は、昭和30年代後半に、市民の反対運動により石油コンビナートの誘致計画が撤回されるなど、市民一人一人に深く根付いております。こうした伝統を背景に、本市は昭和38年に「文教住

宅都市宣言」を行い、現在では関西の住みたい街ランキングで8年連続1位に選ばれるなど、良好な住環境を有するまちとして広く知られるに至っております。

令和を迎え、本市の文教住宅都市としての価値をさらに高めていくに当たり、(1)まちの魅力ある資源の活性化、(2)市民が安全・安心に過ごせる基盤の整備を念頭に、さらなるまちづくりを推進しております。

**まちの資源を生かし、
愛されるまち西宮へ**

本市には、伝統ある「阪神甲子園球場」があります。全国的には高校野球の聖地ですが、市立小学校（6年生）や中学校（1・3年生）の児童・生徒にとっては、体操やダンス、学校別リレーなどの競技・演技を行う、連合体育大会の会場としての思い出の地でもあります。この魅力あふれる地域資源をより積極的に活用するため、本年から成人式を球場で開催



阪神甲子園球場で開催した成人式

し、参加した「宮っ子」から好評を博しています。

また、本市は特色ある九つの大学を擁する「大学のまち」でもあります。大学は専門的な知識を学ぶ場であるだけでなく、文化の醸成とまちの活力にとっても重要な財産です。この貴重な財産を活用するため、本市は「カレッジタウン西宮構想」を掲げ、大学が有する知的資源、人的資源を大学間相互に生かすとともに、また地域社会の一員としてまちづくりに積極的に生かしていく取り組みを進めております。

こうした甲子園球場での成人式、大学が有する豊かな資源を生かしたまちづくりをはじめ、まちの魅力ある資源のさらなる発掘・活性化を通じて、より多くの人々が西宮を愛し、訪れ、住みたくなるようなまちづくりに取り組んでおります。

震災の経験を未来につなぐ

25年前、本市は阪神・淡路大震災に見舞われ、市域は甚大な被害を受けました。この震災の経験を教訓として、本市は近年全国各地で発生する激甚災害、また近い将来発生が懸念されている南海トラフ大地震などから市民の安全・安心を守るため、現在、防災・危機管理の中枢拠点となる新たな庁舎を建設しております。この新庁舎は令和3年4月に開設予定であり、災害対応の第一線で活動する部局を集約するとともに、災害情報などを集中管理し、災害時に最も重要である、迅速かつ正確な情報発信・共有を行う「防災情報システム」を導入した、防災・危機管理の拠点施設として機能することになります。

また、こうしたハード面の整備とともに、「市政出前講座」をはじめ、地域に特化した防災に役立つ情報、自主防災の相談・支援などの防災啓発を中心とした、ソフト面の整備も進めております。災害を正しく理解し、災害発生時にどう行動するか。そのため事前にどう備えるか。震災の記憶を風化さ

せることなく、未来に引き継ぐことを通じ、市民と共に安全・安心なまちづくりを進めてまいります。結びになりますが、先人たちが築いてきた思いを受け継ぎ、ここに新たな価値を見出し、未来へつなぐ。こうした決意を胸に、文教住宅都市としての価値を未来に引き継ぎ、市民が安心して暮らし、住みたい、住んで良かったと思えるまちづくりを実現してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 100・18 km²
- ◆ 人口 48万7593人
- ◆ 世帯数 21万7547世帯

〔将来都市像〕 未来を拓く 文教住宅都市・西宮 憩い、学び、つながりのあるうつくしいまち

〔まちの特徴〕 高校野球の聖地「阪神甲子園球場」で有名な、伝統と文化が息つく、酒造りの盛んなまち

〔特産品〕 日本酒、名塩和紙、和ろう



西宮市長
石井登志郎



そく、和樽、西宮スイーツ、甲子園ヒーロー揚げ

〔観光〕 阪神甲子園球場、夙川公園（日本さくら名所100選）、西宮神社、兵庫県立甲山森林公園、新西宮ヨットハーバー

〔イベント〕 西宮さくら祭、西宮酒ぐらネサンスと食フェア、開門神事福男選び（十日戎）、にしのみや甲子園ハーフマラソン



防災・危機管理の中枢拠点として期待される新庁舎（完成予想図）

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

市民の思いを形に 幸せ・健康を育むまちへ

枕崎港を中心とした
産業が支える水産都市

枕崎市は鹿児島県薩摩半島の最南端に位置する、東シナ海に面した風光明媚な港町です。東に薩摩富士と呼ばれる開聞岳、南西に市のシンボルである立神岩を望む火之神公園からの景色は、県内外



特定第3種漁港の枕崎漁港

から訪れるキャンパーなど多くの人にパワーを感じていただける観光スポットです。

終戦間近の昭和20年7月29日と8月1日の大規模な空襲で市街地の9割を失い、終戦後の9月には枕崎台風の襲来を受け、壊滅的な打撃を受けた後、戦後復興計画に「かつお漁業を中心とした南方漁



生産量日本一を誇る鰹節

業の拠点として隆昌をはかり、南国特有の観光資源を生かした漁業都市となす」とのビジョンを掲げ復興に取り組み、昭和24年9月1日に県内4番目の市として、本市は誕生しました。

その中心を成す枕崎漁港は昭和26年に「第3種漁港」に、昭和44年には「特定第3種漁港」に指定されて、大規模な漁港整備を加速させていきます。枕崎漁港に年間約6万tが水揚げされるカツオを原料に伝統の製法で丁寧につくられる枕崎鰹節は、国内生産の4割以上と、生産量日本一を誇り、味の決め手となるだしの素となり、日本の食を支える存在です。

市民の思いが形になるまち

黒潮と太陽と緑のまち枕崎の8月は特別です。毎年、この時期に



本土最南端の始発終着駅である「枕崎駅」

開催される「さつま黒潮」きばらん海「枕崎港まつり」には、市内外から10万人を超す人々が枕崎漁港を中心とした会場に集まっています。祭りの前後、市民の心の中には普段とは違う何か熱いものが流れ、祭りの開催される2日間には市全体が熱気に包まれます。その祭りのフィナーレを飾るのが、九州最大級の3尺玉の花火です。およそ300万円を要する打ち上げ費用は、全て市民を中心とした個人の寄付で賄われます。

火之神公園に並ぶ観光スポット



九州最大級の3尺玉花火

高血圧ゼロのまち 枕崎プロジェクトを開始

令和元年から、鹿児島大学、枕崎市医師会と共同で「高血圧ゼロのまち枕崎プロジェクト」という取り組みを始めました。多くの市

の一つ、JR指宿枕崎線の枕崎駅は本土最南端の始発終着駅として鉄道ファンに人気です。この駅のレトロな風情の小さな駅舎は、市民などの寄付を基に平成25年に建てられました。

平成31年3月には火之神公園に幸せの鐘が若者有志の手によって建立されました。3尺玉花火、駅舎、幸せの鐘、本市は市民の思いが形になるまちです。

芸術と野球でまちづくり

本市の市街地を望む高台に、温かみのある木造建築の文化資料センター「南浜館」があります。この場所で、平成元年に第1回の現代芸術の公募展「風の芸術展」が

民に、まずは血圧を日常的に測定してもらおうと、市の公共施設、コンビニ、スーパー、パチンコ店、居酒屋など100カ所以上に血圧計を設置しました。まずは自分の血圧を「知る」、そして「下げる」、下げた血圧を「上げない」という三つを柱としたプロジェクトです。

血圧を測るだけで血圧が下がるのかと思われるかもしれませんが、自分の血圧を「知る」ことで早期発見、早期治療につながり、生活習慣病の重症化を防ぐことにつながる効果が期待できます。実際に測り続けることで、脳卒中の発生率が減少したというエビデンスもあり、市民の健康づくりへの取り組みとしてスタートさせたユニークなプロジェクトです。現在は、新型コロナウイルス感染防止のため、オペレーションの見直しも検討しながら、さらに効果的な事業となるよう取り組んでいます。

プロフィール

スタートし10回の公募展を開催、その出品作品の立体作品や地元ゆかりの作家の立体作品など100基がまちの至るところに展示されて青空美術館を形成しています。

公募展は、平成28年から「国際芸術賞展」と形を変えて国際的な若手芸術家の発掘育成の展覧会として発展しています。

また、本年春のセンバツ高校野球における21世紀枠推薦校として、鹿児島県からは地元の県立枕崎高校が選ばれたなど、本市は野球の盛んな土地柄です。現在、南国の温暖な気候を生かした合宿、キャンプ誘致、全国各地の強豪アマチュアチームを招待しての野球交流、地元クラブチームの結成など、野球によるまちづくりに取り組んでいます。

芸術とスポーツを通じて、子どもたちをはじめ市民の幸せ・健康を育むまちとして、これからも一歩ずつ歩を進めてまいります。



枕崎市長
前田祝成

- ◆ 面積 74・78 km²
- ◆ 人口 2万642人
- ◆ 世帯数 1万735世帯

〔将来都市像〕 活力ある地場産業に支えられ 人情味あふれる 安らぎと潤いのあるまち

〔まちの特徴〕 全国有数の枕崎漁港を有し、鯉節、焼酎づくりなど伝統の技が息づくまち



〔特産品〕 鯉節、カツオの加工品、カツオなどの新鮮魚介類、芋焼酎、お茶、電照菊、畜産加工品

〔観光〕 火之神公園、枕崎駅舎、南浜館、薩摩酒造明治蔵、枕崎お魚センター、枕崎市かつお公社、瀬戸公園

〔イベント〕 こどもの日かつおまつり、さつま黒潮「きばらん海」枕崎港まつり、新酒まつり、かつおマイスター検定

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。